

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		永源山公園イベント事業費			担当所属	公園花とみどり課			
基本情報	分野	3 地域づくり		事業期間	～				
	基本施策	2 市民活動の促進		会計種別					
	推進施策	2 市民活動の支援の充実		実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	永源山公園							
	意図	市民による実行委員会と連携し、イベントを開催することにより、地域のふれあいの場を提供し、公園の利用を促進するとともに、地域の活性化や花と緑に対する意識の醸成を図る。							
	成果	実行委員会方式の地域イベントを開催することより、コミュニティの活性化が図られ、公園利用者数の増加が見込まれる。							
	手段	実行委員会と連携し、イベントを開催する。 ・5月 つつじ・ゆめ風車まつり							
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込	
		イベント来場者数		目標値	人	5000	35000	35000	35000
				実績値	人	1000	39000	32000	-
				目標達成度	%	20.0	111.4	91.4	-
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算		
	トータルコスト		8,428	7,994	4,899	6,101	7,002		
	事業費		117	500	2,500	2,500	2,500		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	500	2,500	2,500	2,500	2,500	
		一般財源	117	0	0	0	0	0	
	人件費合計		8,311	7,494	2,399	3,601	4,502		
正職員		8,311	7,494	2,399	3,601	4,502			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員	(人)	1.17	1.04	0.33	0.48	0.60		
	正職員以外	(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境								
	つつじ祭りやゆめ風車まつりを統合し5月につつじ・ゆめ風車まつりとして実施。								
	現状の周辺環境								
環境変化等	各イベントの実行委員会において、組織体制や企画力の強化を図る必要がある。								
	今後の予想される周辺環境								
	集客増に向け、実施内容を検証するとともに、新しいイベント内容についても検討を重ねていく。								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		B	市民による実行委員会を中心としたイベントを開催することにより、地域のふれあいの場を提供し、公園の利用を促進するとともに、地域の活性化を促している。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		B					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		B					
	有効性	4. 計画の実施状況		A	つつじ・ゆめ風車まつりを5月に実施した。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度		B					
		6. 上位施策への貢献度		B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	実行委員会を中心にイベントを企画し運営している。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討		B					
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B	周南市を代表するイベントのひとつであり、公園利用の促進と地域の活性化に貢献した。実行委員会での企画のため、組織の強化と企画の多様性が課題である。							
改革案	今後の実施方向性	維持	地域の活性化と観光振興に寄与するものであり、実行委員会との連携による市民参画事業でもあるので、継続的に開催していく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト増大							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								
地域のふれあいの場を提供し、公園の利用を促進するとともに、地域の活性化を図れる。									

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		永源山公園管理事業費			担当所属	公園花とみどり課			
基本情報	分野	7 生活基盤	事業期間	～					
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備	会計種別						
	推進施策	3 公園・緑地等の適正な維持管理	実施計画	総合戦略					
事業概要	対象	永源山公園							
	意図	永源山公園の適切な維持管理を行い、市民のレクリエーションやコミュニティの場として安全・安心で、快適に利用できる公園とする。							
	成果	公園施設の適切な維持管理を行うことで、誰もが安全・安心に利用できる市民のレクリエーションの場が確保され、利用者数の増加が見込まれる。							
	手段	指定管理者（グリーン環境・シンコースポーツ共同事業体）と連携し、利用者が安全・安心に利用できるよう、適切な維持管理を実施する。							
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込	
		年間利用者数		目標値	人	270000	330000	330000	330000
				実績値	人	333669	380332	329696	-
				目標達成度	%	123.6	115.3	99.9	-
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算		
	トータルコスト		52,776	64,777	60,595	64,439	70,121		
	事業費		48,372	61,390	57,105	59,337	64,569		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	485	4,144	7,671	502	7,486		
		その他	2,970	2,970	2,970	2,970	9,209		
	一般財源		44,917	54,276	46,464	55,865	47,874		
	人件費合計		4,404	3,387	3,490	5,102	5,552		
正職員		4,404	3,387	3,490	5,102	5,552			
正職員以外		0	0	0	151	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(151)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.62	0.47	0.48	0.68	0.74			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.05	0.05			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	市民のレクリエーションやコミュニティ活動の場、ひいては市民の「ふるさと」としての心のシンボルとなるよう、永源山の地形を生かした都市的な開発ゾーンと緑豊かな樹木の残っている保全ゾーンを有した都市公園として整備された。								
	現状の周辺環境								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	市民のレクリエーションやコミュニティの場、災害時における地域防災拠点、緑地の保全などの役割を確保している。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
3. 事務事業の目標（活動指標等）		A							
有効性	4. 計画の実施状況		A	日常的な管理や公園の美化などを指定管理者と連携しながら取り組み、機能保全や安全性の確保を図った。活動指標である年間利用者数は、プール中止に伴い減少した。					
	5. 目標（活動指標等）の達成度		B						
	6. 上位施策への貢献度		B						
	7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B						
効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	指定管理者と連携する等、利用者へのサービス向上に取り組んでいる。					
	9. 類似事業との統合・代替の検討		B						
	10. これまでの実施手段		B						
総合評価	B	指定管理者と連携しながら適切な維持管理に努めているが、長期的な社会動向を見極め、より効率的・合理的な維持管理を進める。							
改革案	今後の実施方向性	維持	長寿命化計画に基づき適切な維持管理を行うとともに、指定管理者による業務実績を検証し、より効果的な管理運営を進める。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト増大							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								
市民が安全・安心に公園を利用することができる。									

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		公園・街路樹維持管理事業費			担当所属	公園花とみどり課		
基本情報	分野	7 生活基盤	事業期間	～				
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備	会計種別					
	推進施策	3 公園・緑地等の適正な維持管理	実施計画	総合戦略				
事業概要	対象	・都市公園等 ・街路樹						
	意図	公園の管理体制の充実を図り、誰もが安全・安心に利用できるように維持管理を行う。街路樹において交通の安全、景観と緑の保全に配慮し、適切な維持管理を行う。						
	成果	公園施設の適切な維持管理を行うことで、誰もが安全・安心に利用できる地域のレクリエーションの場を確保し、コミュニティの活性化を図る。交通安全や景観形成に配慮しながら、街路樹の適切な維持管理を行うことで、まちなかの緑の保全を図る。						
	手段	都市公園等を、利用者が安全・安心に利用できるよう管理を行う。街路樹について、周辺の交通安全を確保し、まちの緑化に配慮した適切な管理を行う。代々木・若葉・青空公園については、令和5年度より徳山駅周辺官民連携管理運営事業（PPP事業）に移行し指定管理者（周南ツナガルコンソーシアム）で管理運営を実施する。						
指標	活動指標	指標名	単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込	
		遊具の点検回数	目標値	回	6	6	6	6
			実績値	回	6	6	6	-
			目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)							
	トータルコスト	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算		
	事業費	148,780	175,857	212,241	247,290	283,060		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	4,500	0	1,200	
		受益者負担	7,711	4,675	3,571	4,846	3,033	
		その他	7,027	7,293	9,179	16,121	20,000	
		一般財源	114,793	134,128	168,528	190,084	224,463	
	人件費合計	19,249	29,761	26,463	36,239	34,364		
	正職員	19,249	29,761	26,463	36,239	34,364		
正職員以外	10,514	11,447	10,535	13,604	17,043			
(事業費集計済分)	(10,514)	(11,447)	(10,535)	(13,604)	(17,043)			
人員	正職員 (人)	2.71	4.13	3.64	4.83	4.58		
正職員以外 (人)	4.75	4.75	4.75	4.50	4.30			
環境変化等	開始時の周辺環境							
	安全・安心な公園施設の保持と、街路樹による良好な景観と居住環境を保全するため、適切な維持管理の必要性が増した。							
	現状の周辺環境							
	公園愛護会の会員の高齢化が進む中、継続的な活動のできる体制づくりが課題となっている。施設の老朽化、市民の要望の多様化により、対応に係るコストは大きく増加している。樹木の太木化による落ち葉、越境問題、地域で対応出来なくなった雑草清掃等の苦情が増えている。							
今後の予想される周辺環境								
施設の老朽化や雑草繁茂、樹木の太木化による維持管理費の増大、高齢化による維持管理における担い手不足など、年々維持管理を取り巻く環境は厳しさを増している。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	市民のレクリエーションの場、災害時における避難地等の防災機能、緑の保全などの役割を確保している。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	B					
	有効性	4. 計画の実施状況	B	日常的な維持管理や公園の美化などを地域と連携しながら取組み、機能保全や安全性の確保を図った。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度	A					
		6. 上位施策への貢献度	B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	B	地域と連携し、適切な維持管理に取組んでいる。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	B					
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	B	良好な景観や生態系の保全等の機能を維持するため、委託業者への指導を行うなど効率的かつ適切な維持管理を図る。また、支障木の伐採による管理数量の削減や公園愛護会などとの市民協働のまちづくりにより維持管理費の縮減を図っていく。						
改革案	今後の実施方向性	維持	長寿化計画に基づき適切な維持管理を行うとともに、事故を未然に防ぐための予防保全的な維持管理を推進していく。支障木の伐採による管理数量の削減や公園愛護会などとの市民協働のまちづくりにより維持管理費の縮減を図っていく。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト増大						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							市民が安全・安心に公園を利用することができる。

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		公園施設災害復旧事業費			担当所属	公園花とみどり課			
基本情報	分野	7 生活基盤		事業期間	～				
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備		会計種別					
	推進施策	3 公園・緑地等の適正な維持管理		実施計画	総合戦略				
事業概要	対象	災害復旧が必要な公園施設							
	意図	公園施設の災害時の緊急対応や応急対応を的確に実施し、公園利用者の安全・安心を確保する。							
	成果	公園施設の災害時の緊急対応や応急対応を的確に実施し、公園利用者の安全・安心を確保することができた。							
	手段	公園施設の災害復旧工事を実施する。							
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込	
		災害復旧状況		目標値	%	100	100	100	0
				実績値	%	100	100	100	-
				目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算		
	トータルコスト		0	8,037	6,947	7,841	0		
	事業費		0	4,434	3,312	4,089	0		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	1,422	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	2,000	1,400	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0		
	一般財源		0	4,434	1,312	1,267	0		
	人件費合計		0	3,603	3,635	3,752	0		
正職員		0	3,603	3,635	3,752	0			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.00	0.50	0.50	0.50	0.00			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	近年の局地的豪雨の顕在化に伴い、本市においても災害被害が多発している。こうした中で、災害時における、緊急・応急対応費用等、災害復旧の重要性が高まりつつある。								
	現状の周辺環境								
関係部署等と密接に連携し、的確かつ迅速な災害状況の把握を行い、可能な限り早期復旧に努めている。									
今後の予想される周辺環境									
地球温暖化等による局地的豪雨や長雨、台風の大規模化などにより、被害の増大が予測される。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	市が管理する公園施設の災害復旧である。					
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A						
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	A						
	有効性	4. 計画の実施状況	A	迅速かつ適切に対応することができた。					
		5. 目標（活動指標等）の達成度	A						
		6. 上位施策への貢献度	A						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	A						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	安全性や経済性を考慮し、最適な手段を選んでいる。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		A							
総合評価	A	災害発生時には、迅速かつ的確な復旧を図り、公園施設利用者の安全・安心の確保に努めている。							
改革案	今後の実施方向性	維持	公園施設災害復旧は、早急かつ迅速な対応が求められる。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								
早期の災害復旧により、災害前と同様な公園利用が可能となる。									

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		公園施設長寿命化対策事業費			担当所属	公園花とみどり課			
基本情報	分野	7 生活基盤		事業期間	～				
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備		会計種別					
	推進施策	2 公園・緑地等の整備		実施計画	該当	総合戦略			
事業概要	対象	都市公園							
	意図	設置から30年以上経過し、施設の老朽化が進んでいる都市公園において、計画的な維持管理の方針や長寿命化計画を定め、公園施設の安全性確保と機能保全を図りつつ、ライフサイクルコストの縮減や平準化を図る。							
	成果	安心・安全で快適な公園環境の形成と機能維持を目指し、計画的な長寿命化対策を実施することで、安全性・利便性・快適性の確保やライフサイクルコストの縮減が図れる。							
	手段	周南市公園施設長寿命化計画に基づく、計画的な維持管理及び適切な長寿命化対策を実施する。							
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込	
		長寿命化対策実施公園数		目標値	公園	2	3	3	3
				実績値	公園	2	3	3	-
				目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算		
	トータルコスト		68,447	32,749	27,616	59,424	100,824		
	事業費		52,465	22,661	18,747	53,722	94,747		
	特定財源	国庫支出金	25,850	11,200	8,850	26,400	46,864		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	14,800	4,600	7,900	23,800	42,100		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0		
	一般財源		11,815	6,861	1,997	3,522	5,783		
	人件費合計		15,982	10,088	8,869	5,702	6,077		
正職員		15,982	10,088	8,869	5,702	6,077			
正職員以外 (事業費集計済分)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
人員	正職員 (人)	2.25	1.40	1.22	0.76	0.81			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	高度経済成長期に集中投資した社会資本ストックの老朽化が急速に進行しており、厳しい財政事情の下で適切に維持管理を行っていくことが、施設管理者にとって重要となっている。								
	現状の周辺環境								
公園に関するニーズが多様化しているが、公園利用者の安全・安心を確保するため、既存施設の老朽化の進行に対して、地域の実情に応じ、計画的な長寿命化対策を推進する必要がある。									
今後の予想される周辺環境									
施設の老朽化に加え、人口減少と少子高齢化が進展する中、持続可能な公園の維持管理が求められる。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)	A	施設の老朽化が進行しており、公園利用者の安全・安心確保のため長寿命化の観点に立った計画を策定し、施設更新を行っている。					
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)	A						
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)	B						
	有効性	4. 計画の実施状況	B	老朽化した施設更新を計画的に実施している。					
		5. 目標 (活動指標等) の達成度	A						
		6. 上位施策への貢献度	A						
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B						
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	公園施設の老朽化の進行に対して、より効果的に長寿命化対策を進捗させる必要がある。					
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A						
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	A	公園利用者の安全・安心の確保の観点から長寿命化対策事業の拡充に努める。							
改革案	今後の実施方向性	拡充	公園施設の老朽化の進行は今後、益々顕著となり、現在の事業進捗では安全性の確保が困難となり、市民への著しいサービス低下となるため、事業費の拡充が必要となる。						
	成果方向性	成果上昇							
	コスト方向性	コスト増大							
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)								
公園利用者の安全・安心を確保することで快適な公園利用の向上が図れる。									

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		公園緑地一般事務費			担当所属	公園花とみどり課		
基本情報	分野	7 生活基盤	事業期間	～				
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備	会計種別					
	推進施策	3 公園・緑地等の適正な維持管理	実施計画	総合戦略				
事業概要	対象	公園緑地の適切な維持・整備等によって、地域の景観や良好な居住環境を確保するため、ソフト面を主体として業務を遂行する。						
	意図	公園緑地の維持・整備等に必要なる事務を執行し、公園緑地の適切な環境維持を図る。						
	成果	公園緑地の維持・整備等に関する事務経費を一括計上し、効率的に執行することで、業務を円滑に進める。						
	手段	契約事務や維持管理車両及び刈払機のメンテナンスなどの公園緑地の維持・整備等に関する事務を執行する。						
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込
		指標なし		目標値				
				実績値				-
				目標達成度	%	-	-	-
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算	
	トータルコスト		10,708	14,216	15,995	18,942	11,882	
	事業費		3,179	3,263	3,200	5,061	2,653	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	731	0	0	0	0	
		一般財源	2,448	3,263	3,200	5,061	2,653	
	人件費合計		7,529	10,953	12,795	13,881	9,229	
	正職員		7,529	10,953	12,795	13,881	9,229	
正職員以外		0	0	0	151	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(151)	(0)		
人員	正職員 (人)	1.06	1.52	1.76	1.85	1.23		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.05	0.05		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	公園緑地の適切な維持・整備等によって地域の景観や良好な居住環境を確保する。							
	現状の周辺環境							
公園緑地の維持・整備等に必要なる維持管理車両等の備品のメンテナンスや更新を行う必要がある。								
今後の予想される周辺環境								
備品等の適切な維持管理や更新を行わなければ、業務を円滑に行うことが困難な状況になる。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)		A	公園緑地の維持・整備等に必要なる事務を執行し、公園緑地の適切な環境維持を図る。			
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)		A				
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)		C				
	有効性	4. 計画の実施状況		A	公園緑地の維持・整備等に関する事務経費を一括計上し、効率的に執行することで、業務を円滑に進め、公園緑地の適切な環境維持を図ることができた。			
		5. 目標 (活動指標等) の達成度		C				
		6. 上位施策への貢献度		A				
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A				
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	公園緑地の維持・整備等に関する事務経費を一括計上しており、効率的に執行していることから、公園緑地の適切な環境維持を図ることができる。			
		9. 類似事業との統合・代替の検討		B				
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	B	公園緑地の維持・整備等のため効率的に事務を執行していく。						
改革案	今後の実施方向性	維持	公園緑地の維持・整備等に関する事務経費を一括計上し、効率的に執行する。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)							
公園緑地の維持・整備等に関する事務経費を一括計上し、効率的に執行することで、業務を円滑に進め、公園緑地の適切な環境維持を図ることができる。								

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		児童福祉施設管理事業費			担当所属	公園花とみどり課			
基本情報	分野	7 生活基盤	事業期間	～					
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備	会計種別						
	推進施策	3 公園・緑地等の適正な維持管理	実施計画	総合戦略					
事業概要	対象	児童遊園45箇所							
	意図	児童が安心して利用できるレクリエーションやコミュニティの場を確保するため、児童遊園施設の適切な維持管理を行う。							
	成果	公園施設の適切な維持管理を行うことで、児童に健全な遊び場を与え、その健康を増進し、情操を豊かにする。							
	手段	児童遊園の借地契約事務、施設の修繕、遊具の点検等を実施する。							
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込	
		遊具の点検回数		目標値	回	6	6	6	6
				実績値	回	6	6	6	-
				目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算		
	トータルコスト		4,936	6,921	6,496	3,429	4,724		
	事業費		2,308	3,894	4,606	2,078	2,698		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	18	18	21	21	20		
		その他	0	0	0	0	0		
	一般財源		2,290	3,876	4,585	2,057	2,678		
	人件費合計		2,628	3,027	1,890	1,351	2,026		
正職員		2,628	3,027	1,890	1,351	2,026			
正職員以外		553	602	555	756	0			
(事業費集計済分)		(553)	(602)	(555)	(756)	(0)			
人員	正職員	(人)	0.37	0.42	0.26	0.18	0.27		
	正職員以外	(人)	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25		
環境変化等	開始時の周辺環境								
	児童に健全な遊び場を与え、その健康を増進し、情操を豊かにするとともに、交通等による災害を防止するため、安全な遊び場の提供や整備が求められた。								
	現状の周辺環境								
開設当初から地域住民の協力を得て、草刈、清掃等の維持管理が行われてきたが、少子高齢化に伴い、年々その維持管理を取り巻く環境は厳しさを増している。また、車社会の熟成や遊び自体の多様化などの理由から、利用度合いは低下傾向にある。									
今後の予想される周辺環境									
更なる施設の老朽化や、少子高齢化による地域住民の担い手不足など、年々その維持管理を取り巻く環境は厳しさを増している。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与(税金支出)		A	児童が安心して利用できるレクリエーションやコミュニティの場を提供する施設を確保し遊具の点検を行っている。				
		2. 事務事業の目的(対象・意図)		A					
		3. 事務事業の目標(活動指標等)		B					
	有効性	4. 計画の実施状況		A	遊具点検について目標通りに実施できた。少子高齢化に伴い、年々維持管理を取り巻く状況は厳しくなっているが、地域住民の協力を得て、維持管理に取組んでいる。				
		5. 目標(活動指標等)の達成度		A					
		6. 上位施策への貢献度		B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	地域住民の協力を得て、適切な維持管理に取組んでいく。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討		B					
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B	児童遊園利用者の安全・安心を図るため、適切な維持管理を行う。							
改革案	今後の実施方向性	維持	安全・快適に利用できるよう、適切な維持管理を行い、老朽化した遊具については、撤去・修繕を行う。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果(どのような効果が期待できるか)								
児童が安全・安心に公園を利用することができる。									

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		鹿野天神山公園整備事業費			担当所属	公園花とみどり課		
基本情報	分野	7 生活基盤	事業期間		～			
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備	会計種別					
	推進施策	2 公園・緑地等の整備	実施計画		総合戦略			
事業概要	対象	鹿野天神山公園（普通公園）						
	意図	中山間地域の拠点となる公園・緑地として、適切な維持管理と公園機能の充実を図る。						
	成果	中山間地域の拠点となる公園として、安全・安心で快適な公園環境の形成と機能維持を目指し、計画的な整備を行うことで、観光・レクリエーション機能等が充実し、利用者数の増加が見込まれる。						
	手段	周南市過疎地域持続的発展計画に基づき、計画的な整備を行う。						
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込
		改修施設数		箇所	0	1	1	0
				箇所	0	0	1	-
		目標達成度		%	-	0.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算	
	トータルコスト		1,429	0	0	19,820	0	
	事業費		1,287	0	0	19,370	0	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	1,200	0	0	19,300	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
		一般財源	87	0	0	70	0	
	人件費合計		142	0	0	450	0	
	正職員		142	0	0	450	0	
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.02	0.00	0.00	0.06	0.00		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	鹿野地域のほぼ中央に位置し、市街地を展望できる天神山に、「ふるさと創生事業交付金」を財源として、平成3年から施設整備を進め、平成4年に庭園やモニュメント、平成5年にふれあい広場やテニスコートの整備を行い、平成6年に開園した普通公園である。							
	現状の周辺環境							
	観光やレクリエーション、地域の憩いの場として利用されているが、公園開設後約30年が経過し、施設の老朽化が進行している。							
今後の予想される周辺環境								
老朽化した施設の改修・更新を実施し、中山間地域の拠点として魅力ある公園づくりが求められる。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	鹿野地域の中山間地域の拠点として観光やレクリエーションの場を提供する機能を確保している。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	B					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）	B					
	有効性	4. 計画の実施状況	A	水車小屋の改修を令和6年度中に完成させた。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度	A					
		6. 上位施策への貢献度	A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	過疎債を最大限活用している。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	A					
10. これまでの実施手段		A						
総合評価	A	利用者の安全・安心のため、適切な維持管理を行うとともに、地域の特色ある景観保全に向け、計画的に整備を進め、交流人口の増加を図っていく。						
改革案	今後の実施方向性	目的（対象・意図）変更	過疎債を活用し、周南市過疎地域持続的発展計画に基づき整備することで、利用者の安全・安心な公園利用を促進する。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）							
公園利用者の安全性確保及び交流人口増加による地域の活性化が期待できる。								

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		周南緑地管理事業費			担当所属	公園花とみどり課		
基本情報	分野	7 生活基盤	事業期間	～				
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備	会計種別					
	推進施策	3 公園・緑地等の適正な維持管理	実施計画	総合戦略				
事業概要	対象	周南緑地						
	意図	周南地域の中核となる都市公園であり、適切な維持管理を行い、スポーツ交流の拠点、憩いの空間、豊かな自然を残した緑地として市民に親しまれ、安全・安心で、快適に利用できる公園とする。						
	成果	快適な公園環境の維持管理を行うことで、誰もが安全・安心に利用できる市民のレクリエーションの場としてだけでなく、スポーツ交流や広域防災の拠点として活用される多機能な施設として、利用者数の増加が見込まれる。						
	手段	利用者が安全・安心に利用できるような適切な維持管理を行う。周南緑地の東緑地、中央緑地は、令和5年度より周南緑地整備管理運営事業（PFI事業）に移行し、指定管理者（周南緑地スポパーク（株））で管理運営を実施する。						
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込
		年間利用者数		人	1000000	1000000	850000	700000
				人	887210	787092	769046	-
				%	88.7	78.7	90.5	-
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算	
	トータルコスト		44,730	56,981	38,950	38,931	47,037	
	事業費		39,829	50,424	33,134	33,304	39,759	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	90	2	3	3	0	
		その他	0	0	940	4,000	3	
	一般財源		39,739	50,422	32,191	29,301	39,756	
	人件費合計		4,901	6,557	5,816	5,627	7,278	
正職員		4,901	6,557	5,816	5,627	7,278		
正職員以外		0	0	0	453	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(453)	(0)		
人員	正職員 (人)	0.69	0.91	0.80	0.75	0.97		
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.15	0.35		
環境変化等	開始時の周辺環境							
	誰もが安全・安心に利用できる市民のレクリエーションの場やスポーツ交流拠点として親しまれるよう、適切な維持管理が求められた。							
	現状の周辺環境							
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）	A	市民のレクリエーションの場、スポーツ交流の拠点、災害時における広域防災拠点、緑地や植物の保全などの役割を確保している。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）	A					
3. 事務事業の目標（活動指標等）		A						
有効性	4. 計画の実施状況		B	日常的な管理や公園の美化などを指定管理者と連携しながら取り組み、機能保全や安全性の確保を図った。				
	5. 目標（活動指標等）の達成度		B					
	6. 上位施策への貢献度		B					
	7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A					
効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	指定管理者と連携するなど、利用者へのサービス向上に取り組んでいるが、PFI事業を導入し、より効率的・合理的な維持管理運営を進める。				
	9. 類似事業との統合・代替の検討		B					
	10. これまでの実施手段		A					
総合評価	B	指定管理者と連携し、適切な維持管理に努めているが、長期的な社会動向を見極め、より効率的・合理的な維持管理を進めるため、令和5年度から周南緑地整備管理運営事業（PFI事業）へ移行し、実施している。						
改革案	今後の実施方向性	維持	長寿命化計画に基づき適切な維持管理を行うとともに、令和5年度からPFI事業の導入により民間事業者のノウハウを生かした良好な利用環境の提供などのサービスの向上に努める。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト増大						
	改革効果（どのような効果が期待できるか）		市民が安全・安心に公園を利用することができる。					

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		周南緑地整備事業費			担当所属	公園花とみどり課			
基本情報	分野	7生活基盤		事業期間	～				
	基本施策	2暮らしやすい都市環境の整備		会計種別					
	推進施策	2公園・緑地等の整備		実施計画	該当	総合戦略	該当		
事業概要	対象	周南緑地							
	意図	周南地域の中核となる都市公園であり、スポーツ交流の拠点、憩いの空間として市民に親しまれ、安全・安心・快適で魅力のある公園として計画的な整備を行う。							
	成果	周南地域の中核となる都市公園として、安全・安心で快適な公園環境の形成と機能維持を目指し計画的な整備を行うことで、公園利用者の利便性が向上し、利用者数の増加が見込まれる。							
	手段	周南緑地基本計画に基づく施設整備を実施する。							
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込	
		年間利用者数		目標値	人	1000000	1000000	850000	700000
				実績値	人	887210	787092	769046	-
				目標達成度	%	88.7	78.7	90.5	-
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算		
	トータルコスト		20,684	25,462	12,423	22,595	33,951		
	事業費		11,237	11,626	1,300	10,890	25,848		
	特定財源	国庫支出金	5,000	0	0	4,900	9,919		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	4,500	0	0	5,300	10,900		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0		
	一般財源		1,737	11,626	1,300	690	5,029		
	人件費合計		9,447	13,836	11,123	11,705	8,103		
正職員		9,447	13,836	11,123	11,705	8,103			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	1.33	1.92	1.53	1.56	1.08			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変化等	開始時の周辺環境								
	昭和43年から61年にかけて公害防止事業団により、共同福祉施設として整備された緩衝緑地である。								
	現状の周辺環境								
本市におけるスポーツ・レクリエーションの拠点であり、広場や駐車場が多数あることなどから災害時の復旧・復興活動を行う広域防災拠点に指定されている。									
今後の予想される周辺環境									
PFI事業と連携した施設整備により、体育施設の更新や公園全体の魅力向上が図れることから、利用者数の増加が見込まれる。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		A	周南緑地基本計画に基づき、公園利用者の利便性向上を図るため整備を行っている。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		B					
	有効性	4. 計画の実施状況		B	概ね計画どおり実施している。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度		B					
		6. 上位施策への貢献度		A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		A					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	継続的に整備を実施しており、令和5年度以降はPFI事業を導入し、連携して計画的な整備を行っている。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討		A					
10. これまでの実施手段		A							
総合評価	A	市民のスポーツ・レクリエーションの拠点として、利便性や魅力の向上を図るため、周南緑地基本計画に基づいた計画的な施設整備を行っている。							
改革案	今後の実施方向性	拡充	スポーツを起点とした都市の活性化のため、令和5年度以降はPFI事業を導入し、連携して計画的な整備を行っている。						
	成果方向性	成果上昇							
	コスト方向性	コスト増大							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								
公園の魅力や利便性が向上し、利用者数の増加が見込まれる。									

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		都市緑化推進事業費			担当所属	公園花とみどり課		
基本情報	分野	7 生活基盤	事業期間	～				
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備	会計種別					
	推進施策	3 公園・緑地等の適正な維持管理	実施計画	総合戦略				
事業概要	対象	市民						
	意図	花とみどりに関する情報の普及を行うとともに、花とみどりにふれあう市民相互の交流の場を提供し、緑化意識の高揚を図る。						
	成果	花とみどりに関する市民活動への支援や、自然環境について学ぶ講座等を実施することで、緑化意識の高揚を図る。						
	手段	公園花壇等の維持管理団体に花の種や育苗資材等を提供し、緑化活動の推進するとともに、公園・街路樹への樹木名板の設置、京都大学フィールド科学教育研究センターとの連携協定に基づいた各種講座や樹木観察会等を開催し、広い視野で自然について考え、みどりに親しみやすい環境を作る。						
指標	活動指標	指標名	単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込	
		講座開催回数	回	3	4	5	5	
			回	4	6	6	-	
		目標達成度	%	133.3	150.0	120.0	-	
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算	
	トータルコスト		6,299	5,418	5,711	5,905	6,096	
	事業費		2,463	2,824	3,094	3,204	3,320	
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	231	260	0	0	0	
		地方債	0	0	0	0	0	
		受益者負担	0	0	0	0	0	
		その他	576	588	2,200	2,500	2,000	
	一般財源		1,656	1,976	894	704	1,320	
	人件費合計		3,836	2,594	2,617	2,701	2,776	
正職員		3,836	2,594	2,617	2,701	2,776		
正職員以外		0	0	0	0	0		
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)		
人員	正職員	(人)	0.54	0.36	0.36	0.36	0.37	
	正職員以外	(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
環境変化等	開始時の周辺環境							
	公園愛護会と連携し、花とみどりに関する情報の普及を行うとともに、花とみどりにふれあう市民相互の交流の場を提供している。							
	現状の周辺環境							
京都大学フィールド科学教育研究センターとの連携協定により定期的に講座を開催し、広い視野で自然について考え学ぶ場を提供するなど、緑化意識の高揚を図っている。								
今後の予想される周辺環境								
市民ニーズの多様化に伴い、講座の内容や開催回数について検討を重ねていく。								
評価	評価項目		評価	評価の理由				
	妥当性	1. 市の関与(税金支出)	A	花とみどりに関する情報の普及を行うとともに、花とみどりにふれあう市民相互の交流の場を提供し、緑化意識の高揚を図る。				
		2. 事務事業の目的(対象・意図)	A					
		3. 事務事業の目標(活動指標等)	B					
	有効性	4. 計画の実施状況	A	京都大学との協定に基づく講座や樹木観察会などを実施することができた。指標以外の事業として、種から育てた苗で花壇づくりやシンボルロード花壇の維持管理、樹木名板の設置を行った。				
		5. 目標(活動指標等)の達成度	A					
		6. 上位施策への貢献度	A					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み	B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み	A	京都大学との協定に基づき、大学関係者による講座や中学生を対象とした体験学習などを実施しているが、市民ニーズの多様化に伴い、講座の内容や回数を考える余地はある。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討	B					
10. これまでの実施手段		B						
総合評価	A	京都大学との協定に基づく講座や体験学習などを実施し、市民参画による緑化活動の推進・啓発と緑豊かな環境整備のため事業を継続的に行う。						
改革案	今後の実施方向性	維持	花とみどりに関する市民活動の支援や市民ニーズの把握に努め、京都大学フィールド科学教育研究センターとの連携協定に基づく体験学習や講座を継続的に開催する。					
	成果方向性	成果維持						
	コスト方向性	コスト維持						
	改革効果(どのような効果が期待できるか)		緑化意識の高揚を図れる。					

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		農村公園管理事業費			担当所属	公園花とみどり課			
基本情報	分野	7 生活基盤	事業期間	～					
	基本施策	2 暮らしやすい都市環境の整備	会計種別						
	推進施策	3 公園・緑地等の適正な維持管理	実施計画		総合戦略				
事業概要	対象	農村公園6箇所（鹿野地域）							
	意図	農村地域の市民のレクリエーションやコミュニティの場として利用されるよう、農村公園の適切な維持管理を行う。							
	成果	公園施設の適切な維持管理を行うことで、地域の交流の場を確保し、農村地域のコミュニティの活性化を図る。							
	手段	農村公園の借地契約事務や、施設の修繕・点検等を実施する。							
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込	
		施設の点検回数		目標値	回	1	1	1	1
				実績値	回	1	1	1	-
				目標達成度	%	100.0	100.0	100.0	-
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算		
	トータルコスト		874	991	978	921	995		
	事業費		519	559	542	546	620		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	2	2	1	1	1		
		その他	0	0	0	0	0		
	一般財源		517	557	541	545	619		
	人件費合計		355	432	436	375	375		
正職員		355	432	436	375	375			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員	(人)	0.05	0.06	0.06	0.05	0.05		
	正職員以外	(人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
環境変化等	開始時の周辺環境								
	地域住民の健康増進とコミュニティ活動の場を提供するとともに、住民福祉の向上を図り、地域社会の発展に寄与することが求められた。								
	現状の周辺環境								
環境変化等	少子高齢化や施設の老朽化が進み、一部の公園については利用者が少ない状況である。								
	今後の予想される周辺環境								
	人口減少と少子高齢化が進展する中、持続可能な公園の維持管理が求められる。								
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与（税金支出）		A	農村地域の市民のレクリエーションやコミュニティの場を提供する施設を確保している。				
		2. 事務事業の目的（対象・意図）		A					
		3. 事務事業の目標（活動指標等）		B					
	有効性	4. 計画の実施状況		B	施設点検について目標通り実施できた。年々維持管理を取り巻く状況は厳しくなっているが、地元と連携して維持管理に取組んでいく。				
		5. 目標（活動指標等）の達成度		A					
		6. 上位施策への貢献度		B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		B	地元と連携し、適切な維持管理に取組んでいく。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討		B					
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B	地域住民の健康増進とコミュニティ活動の場として、公園機能の維持保全を図る。							
改革案	今後の実施方向性	維持	安全・快適に利用できるよう適切な維持管理を行い、老朽化した施設については、撤去・修繕を行う。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果（どのような効果が期待できるか）								
利用者が安全・安心に公園を利用することができる。									

令和7年度 事務事業評価表 (令和6年度実績)

事務事業名		緑のリサイクル事業費			担当所属	公園花とみどり課			
基本情報	分野	8 環境共生		事業期間	～				
	基本施策	1 低炭素・循環型社会の実現		会計種別					
	推進施策	1 低炭素社会の構築		実施計画	総合戦略				
事業概要	対象	公園緑地の樹木、街路樹							
	意図	公園・街路樹等の維持管理で発生する剪定枝、伐倒木等については、ゴミとしてではなく資源として捉え、地球環境にやさしく、最小の費用で活用を図る。この事業により、公園緑地分野の循環型社会の形成を目指す。							
	成果	公園・街路樹等の維持管理で発生する剪定枝、伐倒木等を、バイオマス燃料として民間事業者へ売却し、公園緑地分野の循環型社会の形成を推進する。							
	手段	公園・街路樹等の維持管理で発生する剪定枝、伐倒木等を指定場所に集積した後、バイオマス燃料として民間事業者へ売却。バイオマス燃料として活用することにより、公園緑地分野の循環型社会の形成を推進する。							
指標	活動指標	指標名		単位	R4年度実績	R5年度実績	R6年度実績	R7年度見込	
		木材の売払量		目標値	t	100	200	200	200
				実績値	t	114.99	121.6	115.38	-
				目標達成度	%	115.0	60.8	57.7	-
コスト	(単位：千円)		令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 予算		
	トータルコスト		7,888	13,206	9,394	14,393	1,245		
	事業費		4,763	10,540	6,995	12,592	495		
	特定財源	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0	0		
		受益者負担	0	0	0	0	0		
		その他	65	57	61	57	100		
	一般財源		4,698	10,483	6,934	12,535	395		
	人件費合計		3,125	2,666	2,399	1,801	750		
正職員		3,125	2,666	2,399	1,801	750			
正職員以外		0	0	0	0	0			
(事業費集計済分)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
人員	正職員 (人)	0.44	0.37	0.33	0.24	0.10			
	正職員以外 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
環境変 化等	開始時の周辺環境								
	環境に配慮した循環型社会の形成を推進するため、事業を開始した。								
	現状の周辺環境								
バイオマス燃料としての樹木の受入体制の整備を進めているが、木材の売り払い量の促進が課題となっている。									
今後の予想される周辺環境									
三者による「周南市公共施設発生樹木のバイオマス燃料製造及び自家発電所燃料使用に関する協定」に基づき、公共施設等から排出する剪定枝、伐倒木を用いた木質バイオマス燃料製造及び自家発電所における燃料として使用し、温室効果ガスの排出削減への取組みを進展させていく。									
評価	評価項目		評価	評価の理由					
	妥当性	1. 市の関与 (税金支出)		A	公園や街路樹等の維持管理で発生する剪定枝、伐倒木等を「資源」としてとらえ、循環型社会の形成を目指す。				
		2. 事務事業の目的 (対象・意図)		A					
		3. 事務事業の目標 (活動指標等)		A					
	有効性	4. 計画の実施状況		B	公園や街路樹等の維持管理で発生する剪定枝、伐倒木等をバイオマス燃料として売却し、環境に配慮した循環型社会の形成に寄与した。				
		5. 目標 (活動指標等) の達成度		C					
		6. 上位施策への貢献度		B					
		7. 事業成果の向上へのさらなる取組み		B					
	効率性	8. コスト削減へのさらなる取組み		A	公園や街路樹等の維持管理で発生する剪定枝、伐倒木等をバイオマス燃料として売却し、環境に配慮した循環型社会の形成に寄与した。バイオマス事業の売り払い量を増やし、更なる活用を図る。				
		9. 類似事業との統合・代替の検討		B					
10. これまでの実施手段		B							
総合評価	B	低炭素社会の実現に向けた取組みであり、本事業は重要な役割を担っている。							
改革案	今後の実施方向性	維持	バイオマス燃料化協定に基づき、更なる温室効果ガスの排出削減への取組みを進展させていく。						
	成果方向性	成果維持							
	コスト方向性	コスト維持							
	改革効果 (どのような効果が期待できるか)								
バイオマス燃料として更に活用することで、温室効果ガスの排出削減が期待できる。									